

平成 24 年 12 月 20 日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

表示より電気料金が高額になったオイルヒーターの広告

1. 依頼内容

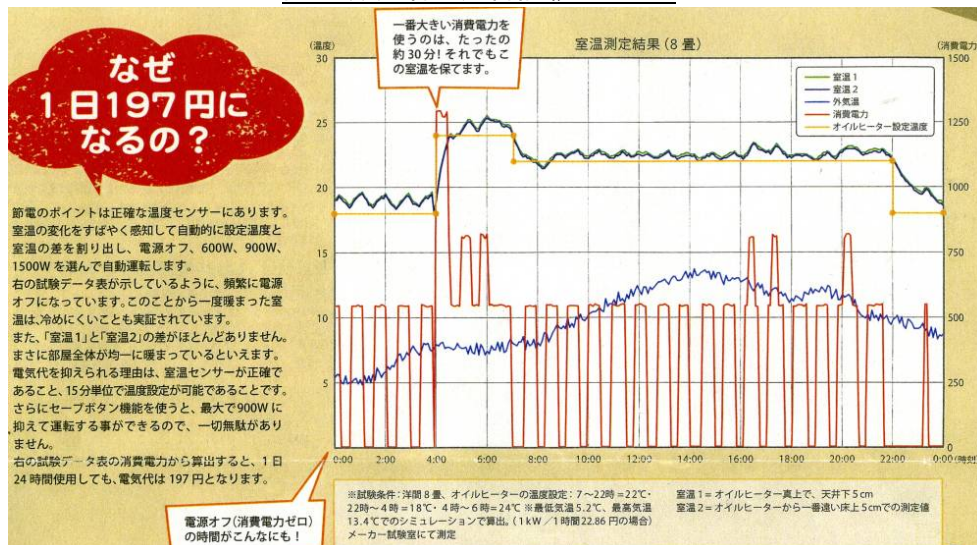
「オイルヒーターを使用したところ、電気料金が高額になった。広告に書かれている電気料金が本当に正しいのか調べてほしい。」という依頼を受けました。

2. 調査

この器具は、電熱ヒーターでラジエーター内のオイルを暖め、ラジエーター放熱板からの放熱により室内空気を暖める暖房器具です。当該品は、14～26℃の2℃刻み7段階の温度設定ができ、温度センサーで感知した室内温度との差により4段階（OFF,600W,900W,1500W）の出力の自動切替を行って設定した温度に調節します。

販売者の商品広告では、センサーで室温を自動感知しプログラムによる24時間の自動運転により1日197円の電気代となる旨の節電効果がうたわれていました（図1）。広告が電気料金の根拠としているメーカーのデータを確認すると、実際の冬の1日の気温（5.2℃～13.4℃）の条件下でヒーターを動作させた時の使用電力量から計算された電気料金として示されていました。しかし、風などの外気条件や測定を行った部屋の断熱性能など、試験条件が詳細に示されていませんでした。

図1. 販売者の広告記載のデータ



国民生活センターの環境テスト室内に設置された戸建の一般的な断熱壁の部屋で、広告データと同じ運転モードの設定にてテストを行った結果、外気温 10℃一定の条件ではヒーター切替の動作は広告のデータと異なっており、約 20%の消費電力量増加となりました。また、外気温 13℃一定とし、室内の保温性を上げた条件では広告データと類似した動作が得られ、約 20%の消費電力量減少となりました（表 1）。

表 1. 外気温一定の条件でのテスト結果

	外気温	1日の消費電力量	1日の電力量料金
条件 1	10℃	10.43 kWh	238 円
条件 2	13℃	7.18 kWh	164 円

以上、当該品の消費電力量は、気象条件や居住住宅の仕様（断熱性・気密性等）、使用状況など、使用環境に大きく依存することがわかりました。広告データは一例であり、実際に使用される環境とは大きく異なることもあるため、消費者に誤認を与えないよう広告の表示について配慮することが望ましいと考えられました。

3. 解決内容等

依頼センターから販売者に対しテスト結果の説明を行ったところ、販売者は Web サイトの表示について、「1 日 197 円」を強調する表示を避け、「実際の電気料金は、ご使用の環境・建物の構造や断熱材・外気温・風速・日照条件・電力会社との契約内容によって異なる場合がございます。」のただし書きを追記し、誤認を避けるように自主改善を行いました（図 2）。

図 2. 追記された電気代算出の条件

電気代算出の条件として

電気代の価格：1 kWh-22.86 円（税込）の場合（2012 年 8 月現在）<試験条件>最低気温：5.2℃、最高気温：13.4℃洋間 8 畳（断熱材あり）オイルヒーターの温度設定：4 時～7 時 -24℃/7～22 時 -22℃/22 時～4 時 -18℃

※立ち上がり運転の電気代は含まれていません。※実際の電気料金はご使用の環境・建物の構造や断熱材・外気温・風速・日照条件・電力会社との契約内容によって異なる場合がございます。使用状況によって消費電力及び電気代は変動しますので、電気代を保証するものではありません。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165